The Washington Center Program

インターンシップレポート

B-3 [redacted]
渡

2011年2月14日

写真説明
左　ウォール街
上　ホワイトハウス
右　とても活発な手本としたいMITの学生

The Washington Center Program

僕はThe Washington Center という団体の　Science and Technology Society というプログラムに参加してきました。

プログラムの内容

ASEE (American Society for Engineering and Education) で国際会議の準備

週５日のインターンシップ、週１回授業、

週一回の課外授業、プログラムからの宿題。

プログラムについて

プログラムは授業を含んでおり、僕の取ることになった授業は主に新しい技術をどのように一般に広げるかといったことについてのディスカッションでした。

プログラムから課外授業も提供され、そのひとつでは船に乗り込み川の化学物質検査などををしました。

プログラムは、奨学生は全員寮の滞在が義務付けられていました。ルームメイトがいる4人部屋で、駅まではバスで行き来することになりました。合衆国議会にとても近かったため、休日に朝起きられた人全員で議会の中のツアーがプログラムで提供されました。

船上で川の汚染レベルを測定

インターンシップ内容

国際課にて国際会議の準備。ウェブサイトの編集。招待状の発信

仕事ではありませんが、だいたい2週に1回くらいボスの勧めでThink tankのワークショップワールドバンク、Carnegie Institute などを仕事の間に行くことができました。受け持った仕事がシンガポールの国際会議(WEEF/ World Engineering Education Forum)だったので、いい経験になるとのことで出張にもついていくことができました。

　シンガポールの出張時はプログラムにスタッフとして参加してきました。一日は学生として。残りはスタッフとして会議の手伝いでした。特に仕事の無いときはボスと一緒に会議について回

り、おかげで学生の参加するはずでない会議を聴講できました。

シンガポールの国際会議が終わるとき、帰りに数日休暇をもらって滞在を伸ばしてシンガポールのLIYSFでの友達にあいました。植物園、科学館に行き、まだ記憶に浅い友人たちと交流を深めてきました。

同時に並行して行われた学生フォーラム

ワークショップ

ワシントンにはシンクタンクが多く存在しているため、その気になってインターネットを探せばかなりいろいろな種類のイベントが見つかります。僕はインターンシップ先のボスが昔ワールドバンクで働いていた関係でよくワールドバンクのワークショップに行きました。あらゆるチャンスがあるようで、僕のルームメイトはこれから始めようとしている事業のサポーターになりそうな人を見つけました。僕はまた別のワークショップでMITの学長をボスから紹介してもらいました。

ASEE主催の工学系学長会議

ワールドバンクでのイベント

休日

11月の終わりの頃にアメリカには連休がありました。このワシントンのプログラムの前に行ったロンドンのフォーラムで知り合い、連絡をとっていた友人が偶然MITに行っていることを知っていたこと、現在留学中の日本人を一人知っていたこと、シンガポールの国際会議で知り合ったIEEEの役員の人がボストンにいるから一度来てみるといいということを言われていたので予定を合わせてボストンに行きました。MIT の雰囲気はかなり東工大に似ていたことに驚きました。また、とてもオープンな雰囲気もあり研究がとても楽しくなるような作りになっていました。一度留学してみたいと思っています。

MITの前のKillan Courtにて

感想

全体を通して思ったことは、基本的に自分からしなければならないこと、やりたいことを見付け出していく力を養ったと思います。東工大から前例の無いプログラムで、データが無かったことで、手続きなどの作業を自分ですべて確認しながら、というところが非常に為になりました。また実際の仕事場を初めて体験し、自分がやらないと迷惑がかかる、というプレッシャーのもと、責任感を養うことができました。

ロンドンの比較的自分より若い年代のフォーラムと、またその反対の形式の全く違うプログラムに連続で参加したことで、自立しなければいけない程度などを比較できた。

週に一回ほどワークショップに参加するように心がけていたのだが、その最中カーネギーインスティテュートという所のワークショップの、技術発展に関するコメントで面白いコメントがあった。「日本では個人が全体のことを考え主張をあまり強くせず社会を動かした結果、とても素晴らしい製品ができている」というものだ。日本の何処かで全く逆のものを聞いたことがあるような気がする。日本では今、全く逆の教育をはじめている気がする。自発的な力を育てる教育。独自性。数年の周期で変わっているのかもしれないが、僕にはそういう独自性の取り入れ方をされた社会よりも、今のままのほうが、「社会」の住みやすさなどは非常に高い気がしている。

アメリカ人のルームメイトの意見ではもうアメリカは中国に抜かされている、と思っているそうです。そういう意識がアメリカの国民の中に生まれてきているのは確かなのだとは思う。しかし、そういう住みやすさはどうあれ、世界一有名な大学にはやる気のある生徒が集まることは確かであるので、そういう刺激的な場所でしばらく勉強してみたいという気持ちはまだあります。

外国語で勉強するということはとても面白いことではあるのですが、とても時間がかかるものでした。いつもなら簡単なことに余分に時間がかかり、興味の湧いたことをを日本にもって帰ってゆっくりこなすことにしました。日本で読もうと思った本を重量制限の問題であまり沢山買ってこれなかったのは残念です。

自分から行動するちからがかなり付いたと自分では思っています。その日に何をするべきなのか、イベントや何かの機会はどんどん過ぎていってしまうので、それを決め、自分で選んでいく事を学びました。特に後半2ヶ月は、ほぼ毎日、何をしなければならないか、明日で間に合わないことは何か、という問を自問自答しながら暮らしたような気がします。

結果として、MITへの訪問、またそこで会うことに決めた人との予定合わせ、博物館へ通ったこと、ワークショップなど本当に自分の意志で行動した瞬間だったと思います。

これで学んだことというよりも、何をしたいと思ったかということのほうが重要だと思うので、この期間中感じていた気持ちを忘れないように勉強を続けていきたいと思います。

以上